

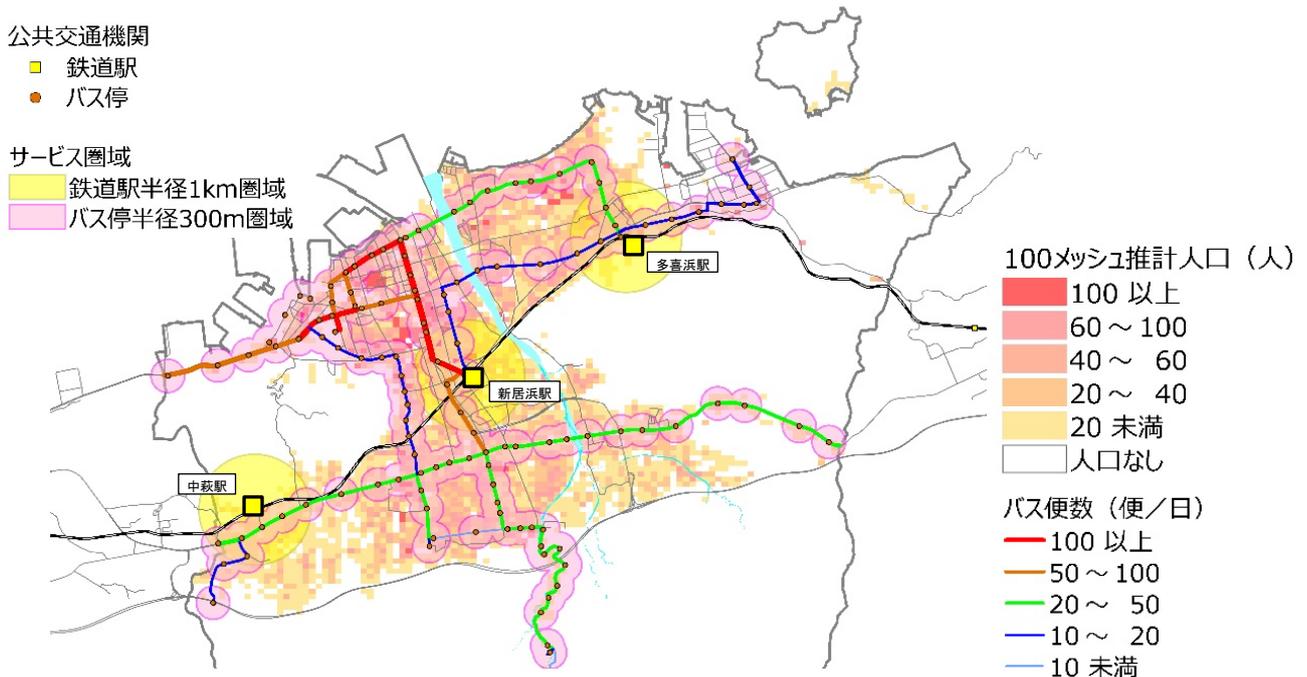
(2) 公共交通に関する課題

ア. 公共交通における将来見通し

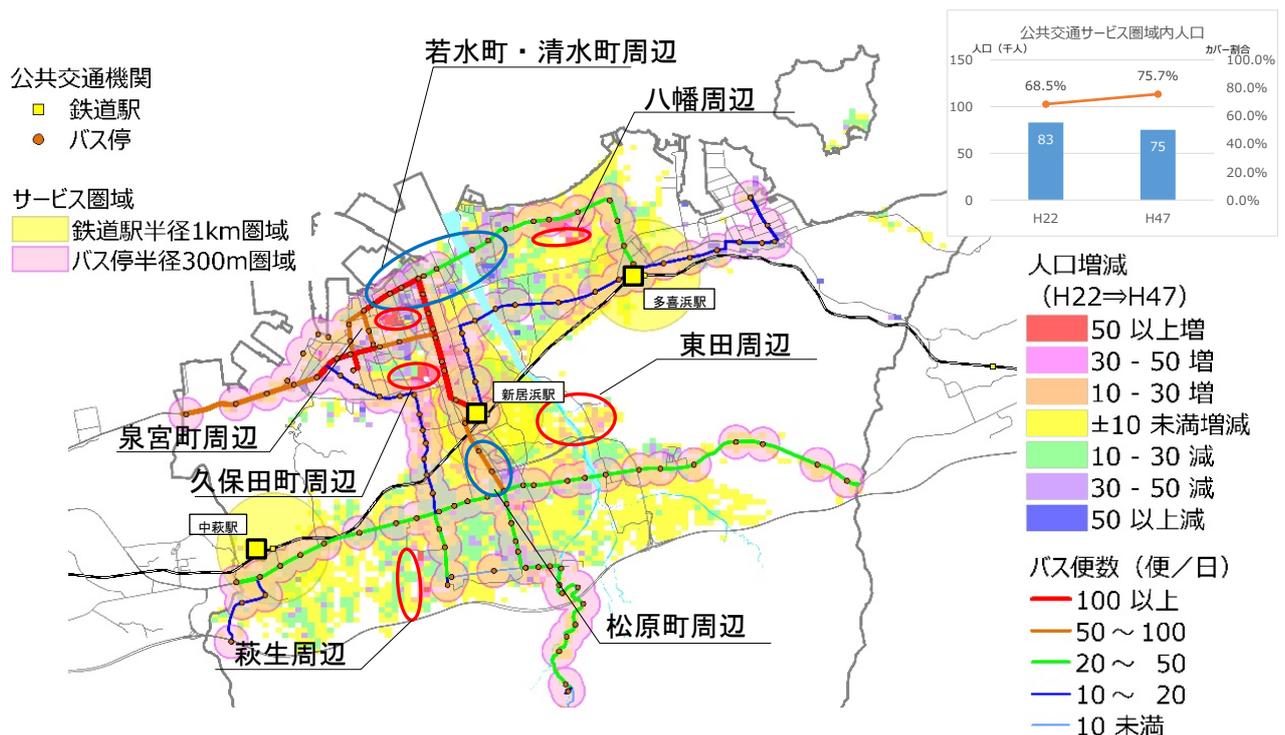
平成47年には、公共交通サービス圏外の久保田町や泉宮町、八幡、東田の周辺で人口が増加する見込みです。

一方で公共交通サービス圏域は、人口減少傾向にあり、特に若水町、清水町、松原町の周辺で減少が大きく、このままでは公共交通利用者が減少するものと考えられます。

図表 交通サービス圏と100mメッシュ人口(平成47年)

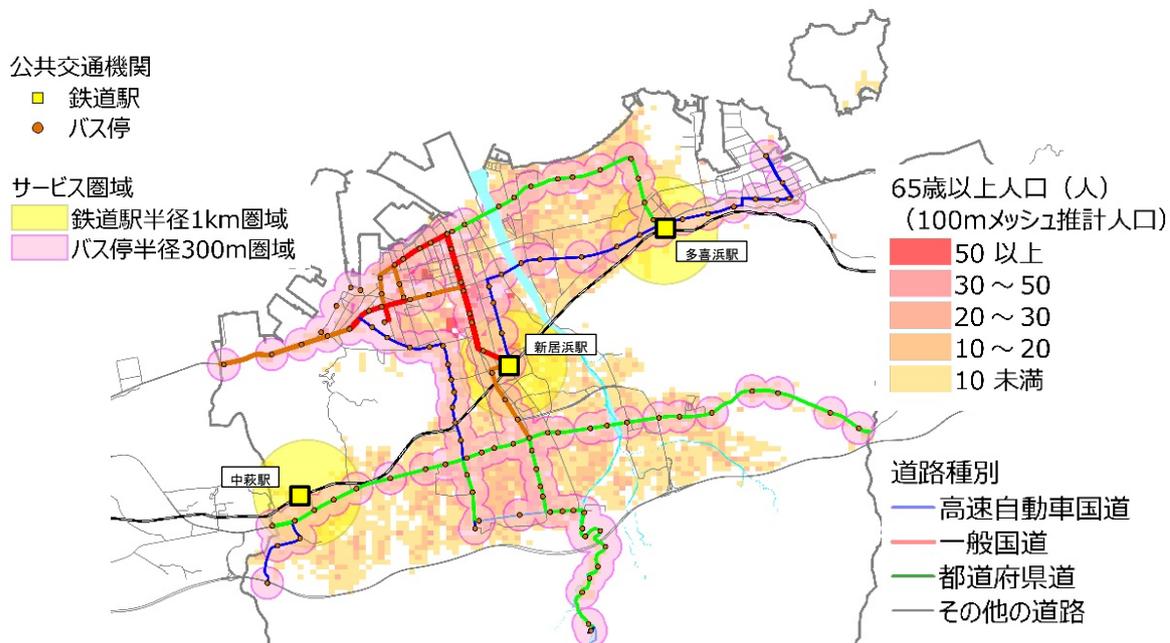


図表 交通サービス圏と100mメッシュ人口増減(平成22年→平成47年)

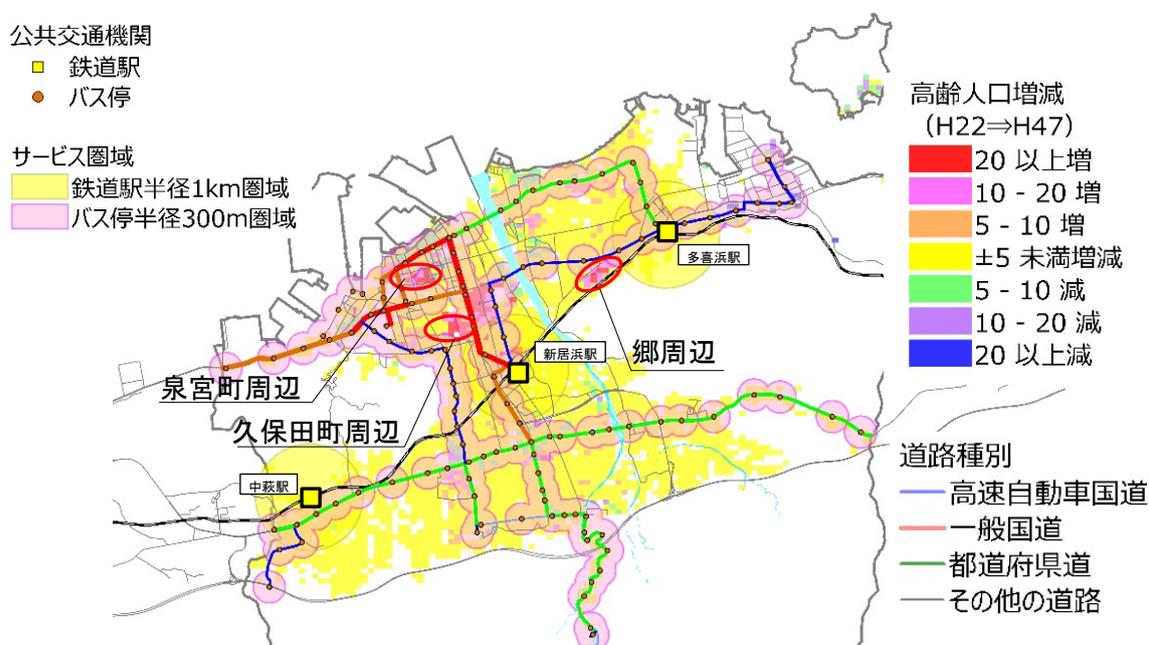


また、公共交通サービス圏外の久保田町、泉宮町、郷において、高齢者が大きく増加する見込みであり、このような地区では、今後高齢者の免許返納などが進み自動車を運転できなくなった場合、移動手段に困る状況が考えられます。

図表 交通サービス圏と100mメッシュ高齢者人口(平成47年)

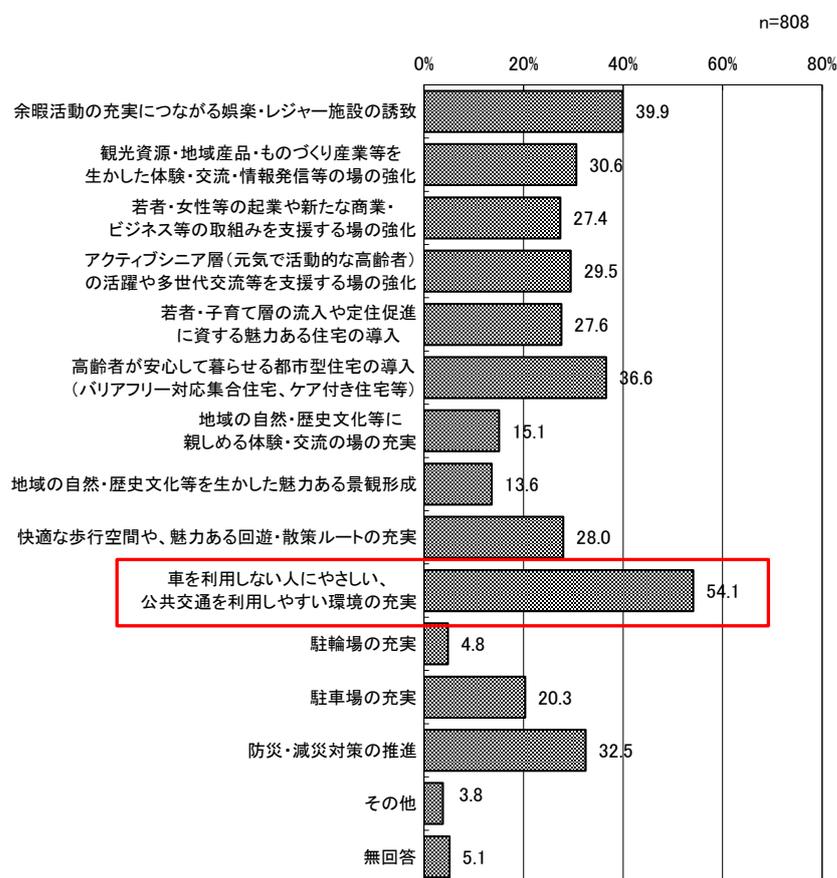


図表 交通サービス圏と100mメッシュ人口増減(平成22年→平成47年)



市民意向調査では、まちの活性化に重要な取組は、「車を利用しない人にやさしい、公共交通を利用しやすい環境の充実」が54.1%ともっとも多い。

図表 都市機能の強化以外に、どのような取組を総合的に実施していくことが、まち全体の活性化にとって重要か



資料:新居浜市立地適正化計画策定に係る市民意向調査 報告書(平成 29 年 2 月)

イ. 公共交通における課題

〔現状〕

- 本市においては、新居浜駅～市役所前～東町～イオンモール新居浜～住友病院前間はバス運行本数が多く、また、これらの区間を発着する利用も多いことから、市の基幹的な公共交通としてのネットワークから見た資質はあるものと考えられます。しかし、移動の実態をみると自動車利用がほとんどで、バスは利用されていないのが現状です。
- このような中、比較的運行頻度の高い市役所周辺や臨海部をはじめ、バス路線沿線の多くで人口減少が見込まれます。
- 一方で、公共交通のサービス圏域外（公共交通空白地域）の久保田町、八幡、東田、萩生では、人口が増加する見込みです。
- 公共交通サービス圏外の久保田町、泉宮町、郷において、高齢者が大きく増加する見込みです。
- 都市拠点において、都市機能の強化以外のまち全体の活性化にとって重要な取組として、「車を利用しない人にやさしい、公共交通を利用しやすい環境の充実」を半数の人が挙げています。



〔課題〕

●公共交通を利用しやすい環境づくりが必要

- 現状のまま人口推移が進むと、公共交通利用者数の減少により公共交通の維持が困難になる可能性が高くなります。公共交通を利用しやすいよう、駅・バス停周辺の土地利用を誘導していくことが必要です。

●高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段の確保が必要

- 昨今、高齢者ドライバーの事故が多くなっており、免許返納の動きが全国的に加速していますが、自動車依存からの脱却には、代替りの移動手段となる公共交通が必要不可欠です。